

《研究報告》

グループホームにおける認知症高齢者への漸進的筋弛緩法：
グループホーム職員へのインタビューによる検討池俣 志帆¹⁾，百瀬 由美子²⁾¹⁾ 椋山女学園大学看護学部看護学科，²⁾ 愛知県立大学看護学部看護学科

要 旨

【目的】グループホームにおいて認知症高齢者に漸進的筋弛緩法を実施し、漸進的筋弛緩法の実施状況や、認知症高齢者の反応等について、グループホーム職員へのインタビューから明らかにすることとした。【方法】漸進的筋弛緩法を実施するグループホーム職員に、漸進的筋弛緩法の実施状況や利用者の反応等に関してインタビューにより情報を収集し、質的に分析した。時期は、漸進的筋弛緩法介入後1～2週間、介入30日後、介入90日後頃に行った。【結果】5つのグループホーム、14名の職員よりインタビューを行った。漸進的筋弛緩法を導入してから1～2週間後では、漸進的筋弛緩法の実施動作は行えており、技法が習得できていることがわかった。また、集団での実施に慣れ、継続して実施できる可能性と意向が確認された。一方で、深呼吸が退屈になりやすく、下腿・大腿部の動作が飽きやすい等の実施の困難さと改善の必要性も明らかとなった。介入30日後では、漸進的筋弛緩法の実施が、習慣化してきており、継続して実施した影響を感じていた。そして、集団で行うことでのメリットや、いつでもどこでも実施できるといった技法の利点について発言が聞かれた。介入90日後では、漸進的筋弛緩法をグループホームで継続していく利点や、集団で行ったことでの良い効果や、集団での実施によって利用者同士の関係が生じるといった気づきについての内容があった。【結論】漸進的筋弛緩法は、グループホームにおける認知症高齢者に対し、介入1～2週間後では、実施動作は概ね行うことができた。漸進的筋弛緩法は、グループホームにおける認知症高齢者に対し、集団で継続して実施する方法として有用である可能性があり、本研究を通して実施上のポイントや、実施上の困難さや改善の必要性を有する点についても明らかとなった。

キーワード：認知症，漸進的筋弛緩法，グループホーム